

地域振興県土警察常任委員会資料

(令和元年5月21日)

- 1 「若桜の春色まつり～ピンクSLとともに～」の開催結果について
【交通政策課】・・・ 1ページ
- 2 公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について
【教育・学術振興課】・・・ 2ページ
- 3 県内の日本語学校の開校について
【教育・学術振興課】・・・ 3ページ
- 4 平成30年住宅・土地統計調査における住宅数概数集計結果の概要について
【統計課】・・・ 4ページ
- 5 県内文化財の国重要文化財追加指定について
【文化財課】・・・ 6ページ
- 6 麒麟のまち圏域の「日本遺産」認定について
【文化財課】・・・ 9ページ
- 7 第5回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会の開催結果について
【スポーツ課】・・・ 13ページ
- 8 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について
【スポーツ課】・・・ 14ページ

地 域 振 興 部



「若桜の春色まつり～ピンクSLとともに～」の開催結果について

令和元年5月21日

交通政策課

4月28日(日)に若桜駅で4回目となるピンクSLのイベントが開催され、ピンクSLのお披露目や平井知事によるピンクSL構内運転、幸福ピンクもちまき等が行われました。

1 イベントの概要

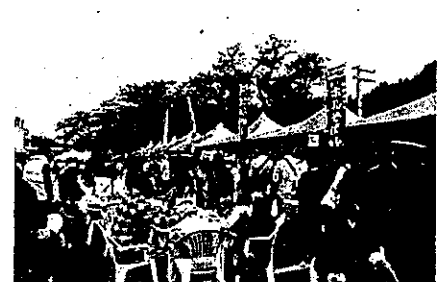
- (1) 日 時 平成31年4月28日(日) 10時～17時(第一部) 18時～20時(第二部)
- (2) 場 所 若桜駅構内及び若桜駅前広場
- (3) 主な出席者 平井知事、舞立参議院議員、矢部若桜町長、吉田八頭町長、福田県議会議員、西川県議会議員、小倉若桜鉄道社長等
- (4) 主なイベント ピンクSLお披露目、ピンクSL構内運転、幸福ピンクもちまき、若桜駅構内ピンクライトアップ、ピンク色をした花火の打ち上げ、ピンク色商品販売(ピンクたい焼き等)
- (5) イベントの反響 今年度は例年若桜町が主催している「さくらまつり」と「ピンクSLイベント」を同時開催するなどの、イベントの充実により、約4,000人(主催者発表)が来場した。



ピンクSLお披露目



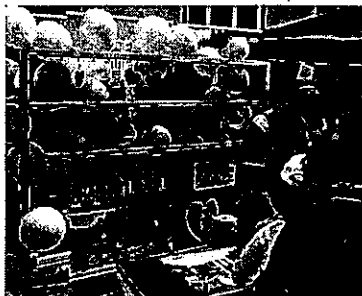
幸福ピンクもちまき



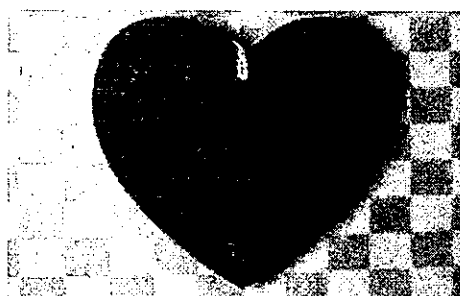
出店ブース

2 智頭急行との連携

- ・イベントには、恋山形駅のピンクつながりで若桜駅前広場に、智頭急行のブースが出店され、恋山形駅の絵馬を先着51(こ(5)い(1))名にプレゼントし、来場者が特設の掲示板に絵馬を掲げた。
- ・ピンクSLと恋山形駅のピンクつながりをPRするため、JR鳥取・郡家・智頭の各駅、智頭急行沿線の駅にピンクSLのポスターを掲示し、双方への誘客促進の取組を行った。



智頭急行のブース



絵馬



ピンクSLのポスター

公立鳥取環境大学の入試実施状況と就職活動状況について

令和元年5月21日
教育・学術振興課

1 入試実施状況

- 志願倍率は6.0倍(平成30年度6.1倍)、入学定員充足率は108.3%(平成30年度105.4%)であり、18歳人口の減少が一層進む中、志願者が確保された。
- 県内出身の志願者は228名(平成30年度222名)と順調に推移し、入学者に占める県内出身者の割合は15.7%(平成30年度14.8%)と微増したが、さらなる増加を目指す必要がある。
- 県内入学者の増加に向け、昨年度、県立高校校長OBを「県内入学者促進コーディネーター」として配置し、県内高校訪問回数の増加や、県内保護者向けパンフレットの作成など、環境大学のPRや受験の働きかけを強化したところであり、また、2021年入試(2020年実施)から、県内高校限定の共通テストを課す推薦入試を実施することとしている。

学 部 名	環境学部		経営学部		合 計	
	31年度	30年度	31年度	30年度	31年度	30年度
年 度	31年度	30年度	31年度	30年度	31年度	30年度
募集人員(A)	138名	138名	138名	138名	276名	276名
志願者数(B)	658名	545名	985名	1,129名	1,643名	1,674名
うち県内(B')	(51名)	(38名)	(177名)	(184名)	(228名)	(222名)
県内割合(B'/B)	(7.8%)	(7.0%)	(18.0%)	(16.3%)	(13.9%)	(13.3%)
志願倍率(B/A)	4.8倍	3.9倍	7.1倍	8.2倍	6.0倍	6.1倍
入学者数(C)	141名	149名	158名	142名	299名	291名
うち県内(C')	(7名)	(12名)	(40名)	(31名)	(47名)	(43名)
県内割合(C'/C)	(5.0%)	(8.1%)	(25.3%)	(21.8%)	(15.7%)	(14.8%)

<参考>他の県内大学の入試実施状況

大 学 名	鳥取大学		鳥取看護大学		鳥取短期大学	
	31年度	30年度	31年度	30年度	31年度	30年度
年 度	31年度	30年度	31年度	30年度	31年度	30年度
募集人員(A)	1,140名	1,140名	80名	80名	300名	300名
志願者数(B)	5,717名	5,317名	145名	173名	328名	333名
うち県内(B')	(887名)	(814名)	(103名)	(125名)	(260名)	(287名)
県内割合(B'/B)	(15.5%)	(15.3%)	(71.0%)	(72.2%)	(79.3%)	(86.2%)
志願倍率(B/A)	5.0倍	4.7倍	1.8倍	2.2倍	1.1倍	1.1倍
入学者数(C)	1,171名	1,166名	68名	89名	269名	285名
うち県内(C')	(195名)	(194名)	(50名)	(72名)	(221名)	(255名)
県内割合(C'/C)	(16.7%)	(16.6%)	(73.5%)	(80.9%)	(82.2%)	(89.5%)

2 就職活動状況

- 平成30年度卒業生の就職率は99.1%と、過去最高を達成した。
- 内定者に占める県内企業内定者の割合は23.7%であり、昨年度の10.1%と比較し大幅に向上したが、このたびの卒業生の入学時の県内入学率が18.9%(前年度12.0%)と比較的高かったことに加え、これまで地道に取り組んできた「とっとりインターンシップ」や「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」の成果が徐々に現れていると考えられる。
- 今年度から新たに、とっとりインターンシップ相談ブースを週1回開設し、県中小企業団体中央会のコーディネーターが相談に応じるなど、さらなる県内就職支援体制の充実を図っている。

大 学 名	公立鳥取環境大学 (3/31現在)		鳥取大学 (5/1現在)		鳥取短期大学 (4/30現在)		鳥取看護大学 (4/30現在)
	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度
年 度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度	29年度	30年度
卒 業 者 (A)	254名	294名	1,112名	1,145名	272名	254名	71名
就 職 希 望 者 (B)	230名	261名	649名	662名	245名	232名	64名
うち県内出身者	(42名)	(31名)	(135名)	(136名)	(196名)	(179名)	(45名)
内 定 者 (C)	228名	258名	647名	657名	244名	230名	64名
うち県内企業(C')	(54名)	(26名)	(149名)	(143名)	(185名)	(174名)	(58名)
県内割合(C'/C)	23.7%	10.1%	23.0%	21.8%	75.8%	75.7%	90.6%
内 定 率 (C/B)	99.1%	98.9%	99.7%	99.2%	99.6%	99.1%	100%

3 公立化以降の県内入学率、県内就職率の状況

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
県内入学率	23.6%	21.7%	12.0%	18.9%	14.1%	14.7%	14.8%	15.7%
県内就職率	46.4%	42.0%	32.1%	21.6%	22.9%	10.1%	23.7%	

※H27に公立化後最初の卒業生が就職

県内の日本語学校の開校について

令和元年5月21日
教育・学術振興課

学校法人鳥取学園の「鳥取城北日本語学校」及び学校法人米子永島学園の「米子日本語学校」については、本年2月に法務省において日本語教育機関として告示され、鳥取城北日本語学校は4月10日に、米子日本語学校は4月17日にそれぞれ入学式を行い開校しました。

1 4月開校した日本語学校の概要

(1) 鳥取城北日本語学校

卒業後に県内企業等への就職を目指す大卒の高度外国人人材を受入れるのが特色である。

- ①所在地 鳥取市古海37-4 (旧 専門学校鳥取情報経営学院：H26.3閉校)
- ②校長 石浦外喜義氏 (鳥取学園理事長、鳥取城北高等学校校長)
- ③収容定員 100名 (開校時の入学者数：17名)
- ④修業年限 1年
- ⑤主な対象 ベトナム人 : 大卒後に日本での就職先が内定している学生を選抜
- ⑥学費等 総計82万円 : 半分は就職内定企業が負担
- ⑦学生寮 鳥取市行徳一丁目の民間マンションの一部を借用、学生は全員入寮
- ⑧その他

学生は、同法人が設置する鳥取城北高校相撲部と連携して、相撲を通じた地域住民との交流等を図る予定である。

(2) 米子日本語学校

大学進学を目指す学生を受入れ、同法人が設置する米子松蔭高校との連携等が特色である。

- ①所在地 米子市二本木316番地1 (米子松蔭高等学校内)
- ②校長 上田俊英氏 (米子永島学園常務理事、前米子松蔭高等学校校長)
- ③収容定員 78名 (入学定員39名) (開校時の入学者数：3名)
- ④修業年限 2年
- ⑤主な対象 ベトナム人 : 日本の大学等への進学を目指す学生を受入れ
- ⑥学費等 1年目69万円、2年目61万円
- ⑦学生寮 米子市蚊屋289番地18 (伯耆大山駅近く) に設置、学生は全員入寮
- ⑧その他

学生は、学生寮のある巖地区における納涼祭(8月)、いわお祭(11月)などに参加して地域住民との交流等を図る予定である。

2 設立認可手続の経緯

手続	認可庁	鳥取城北日本語学校	米子日本語学校
学校設置認可 (校種：各種学校)	鳥取県	H29.10.10 認可申請 H29.10.18 私学審議会へ諮問 H29.10.31 私学審議会の答申 H29.11.16 認可	H30.3.6 認可申請 H30.3.19 私学審議会へ諮問 H30.3.27 私学審議会の答申 H30.3.30 認可
日本語教育機関に係る審査	法務省 (入国管理局)	H30.4 申請 H30.7.26 文科省ヒアリング H30.10.26 法務省より内示 H31.2.19 法務省より告示	H30.4 申請 H30.7.30 文科省ヒアリング H30.10.26 法務省より内示 H31.2.19 法務省より告示

3 県内の他の日本語学校の状況

学校名	設置者	所在地	認可等	開校日	国籍	修業年限	定員
①米子国際ビジネスカレッジ	(株)アイゼン	米子市	H27.6.26認可 (各種学校)	H29.4.1	ベトナム	2年、 1年6月	95名
			H29.2.20法務省告示				
②智林(ちりん)日本語学校	合同会社	智頭町	県への各種学校申請 なし	H29.10	ウズベキ スタン	2年	60名
			H29.8.14法務省告示				

平成30年住宅・土地統計調査における住宅数概数集計結果の概要について

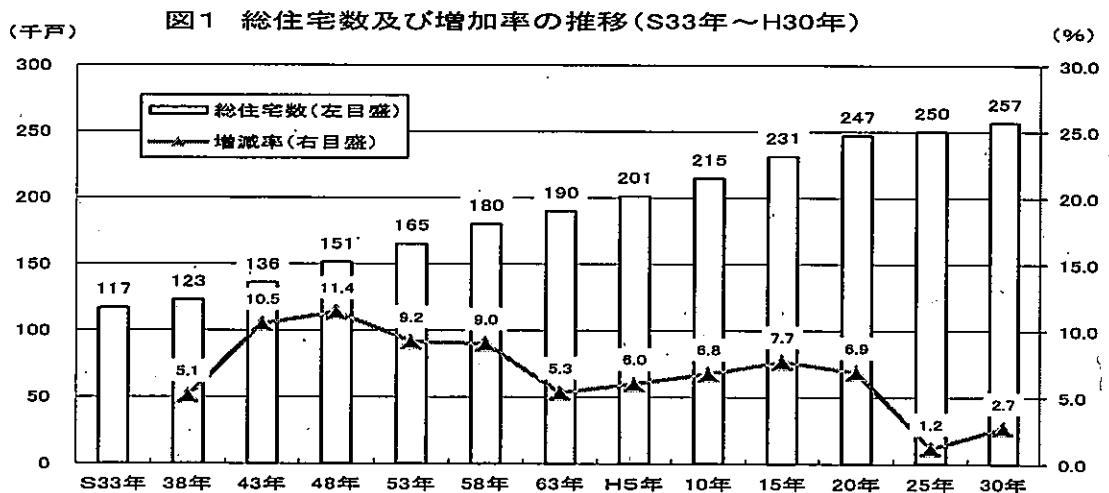
令和元年5月21日

統計課

平成30年住宅・土地統計調査における住宅数概数集計結果がまとまりましたので、その概要を報告します。

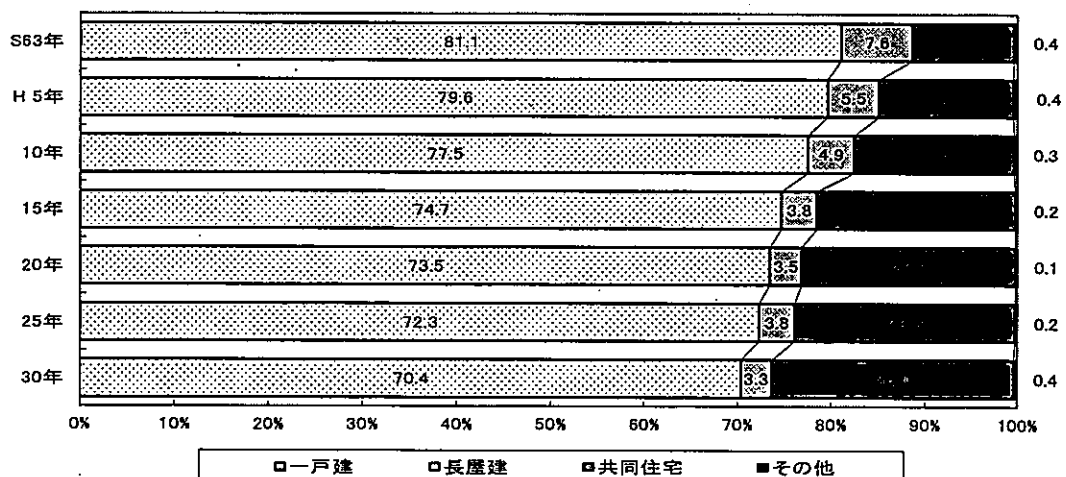
- 平成30年10月1日現在における鳥取県の総住宅数は256,900戸となり、前回(平成25年)に比べ6,800戸増加し、増加率は2.7%となった。
 - ・総住宅数の推移をみると、昭和33年から一貫して増加が続いている。
 - ・総住宅数の増加率を全国と比べると、0.3ポイント少ない。
- 住宅の状況を建て方別にみると、一戸建は152,400戸で、住宅全体の70.4%を占めているが、前回と比べて1.9ポイント減少している。また、共同住宅は5,900戸増加で、前回と比べて11.7%上昇しており、住宅全体に占める割合は年々増加している。
- 空き家は39,400戸で、空き家率(総住宅数に占める割合)は15.3%となり、前回と比べ0.9ポイントの増加となった。
 - ・空き家数の推移をみると、昭和33年以降増加傾向となり、前回に初めて減少に転じたものの、今回再び増加となり、平成30年までの60年間では過去最高となった。
 - ・空き家率をみると、平成20年の15.4%に次ぎ2番目に高くなった。また、全国と比べると、1.7ポイント高く、全国順位も前回23位から18位へと上昇した。

1 総住宅数



2 住宅の建て方

図2 住宅の建て方別割合の推移(S63年～H30年)



3 空き家

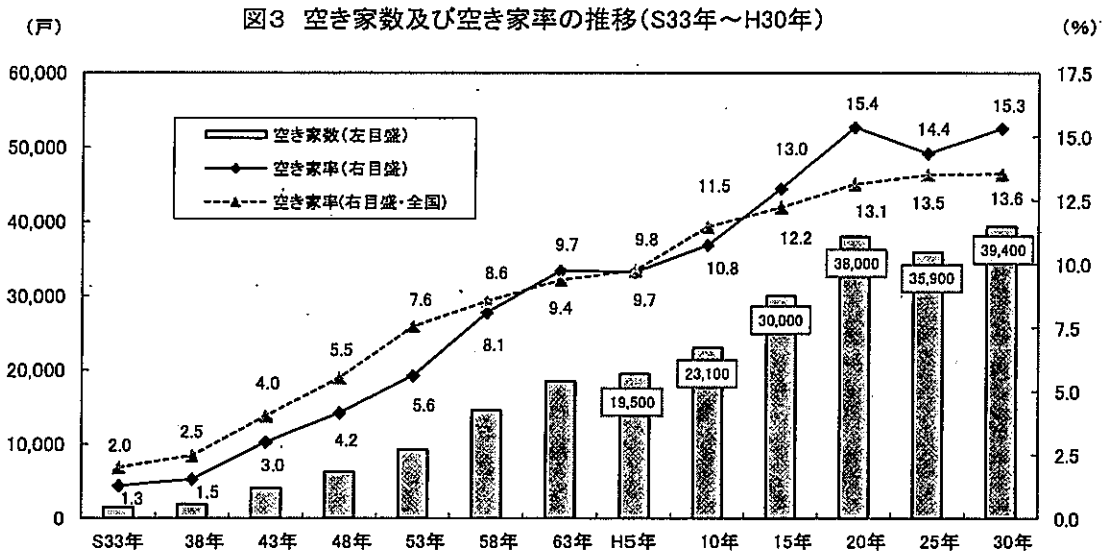


表 総住宅数、空き家数、空き家率(全国、鳥取県)(平成25年、平成30年)

区分	総住宅数(千戸)				空き家数(千戸)		空き家率(%)	
	H30	H25	H25～H30の増減		H30	H25	H30	H25
			増加数	増加率(%)				
全国	62,420	60,629	1,791	3.0	8,460	8,196	13.6	13.5
鳥取県	257	250	7	2.7	39	36	15.3 (全国18位)	14.4 (全国23位)

平成30年住宅・土地統計調査の概要

○調査の目的

住宅・土地統計調査は、我が国における住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びに住環境、現住居以外の住宅及び土地の保有状況その他の住宅等に居住している世帯に関する実態を調査し、その現状と推移を全国及び地域別に明らかにすることにより、住生活関連諸施策の基礎資料を得ることを目的としている。調査は昭和23年以來5年ごとに実施しており、平成30年調査はその15回目に当たる。

○調査の時期

平成30年10月1日現在

○調査の対象

全国で約370万住戸・世帯、鳥取県で約1万7,000住戸・世帯(約15分の1の世帯を無作為抽出)

○調査事項

- ・住宅に関する事項(居住室数及び広さ、敷地面積、構造、建て方等)
- ・世帯に関する事項(世帯の構成、年間収入、通勤時間、入居時期等)
- ・住環境に関する事項(安全性、快適性等)

○結果の公表予定

- ・住宅数概数集計(全国・都道府県) 2019年5月(今回公表)
- ・住宅及び世帯に関する基本集計(全国・都道府県・市町村) 2019年9月
- ・住宅の構造等に関する集計(全国・都道府県・市町村) 2020年1月
- ・土地集計(全国・都道府県・市町村) 2020年3月

※住宅数概数集計とは

平成30年住宅・土地統計調査における住宅数概数集計の結果とは、調査結果を早期に提供することを目的として、住宅総数、空き家の総数等の概数を、確定数の公表に先がけて公表するものである。今後公表する住宅及び世帯に関する基本集計等の確定数は、住宅数概数集計の数値とは必ずしも一致しない。統計表の数値は10位を四捨五入して、100位までを有効数字として表章している。

※結果の概要は統計課ホームページで公表している。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/38792.htm>

県内文化財の国重要文化財追加指定について

令和元年5月21日
文化財課

令和元年5月17日（金）、国の文化審議会（文部科学大臣の諮問機関、会長 佐藤信大^{さとうのぶひろ}、大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）は、下記のとおり重要文化財（建造物）として追加指定するよう文部科学大臣に答申しました。

記

1 追加指定の概要

(1) 名称

福田家住宅（ふくたけじゅうたく）

上の蔵^{かみくら} 1棟、下の蔵^{しもくら} 1棟、附^{つり} 新築蔵^{しんしきくら} 1棟

宅地、畑及び山林1549.97平方メートル

上記地域内の塀、庭門、門、石垣、イドを含む

(2) 所在地

鳥取県鳥取市紙子谷^{かこだよ}60番地

(3) 所有者

福田^{ふくた} 善一^{ぜんいち}

(4) 追加指定の経緯

福田家住宅は17世紀前半に建設されたと推定される主屋^{しゅおく}が鳥取県最古の民家と評価され、昭和49年に重要文化財に指定された。

平成29年度に鳥取市教育委員会が福田家住宅の附属建物などの屋敷^{やしき}構え^{かまえ}全体を調査したところ、土蔵や塀、石垣などが主屋と一体となって福田家住宅の歴史的価値を形成していることが明らかになり、平成31年3月25日に鳥取市教育委員会が文化庁に追加指定をするよう意見具申を行った。これを受け、文化審議会で審議し、土蔵3棟と敷地（敷地内の工作物含む）を追加指定するよう答申を行った。

(5) 建物の概要と評価

名称	特徴等	建設年代
かみ 上の蔵	見附の蔵、仲の蔵、新蔵を一体とした三戸前の土蔵。桁行14.4m、梁間3.9m、土蔵造二階建、切妻造、棧瓦葺、正面に下屋が付属する。見附の蔵と仲の蔵は文政元年に建築、新蔵は明治41年に増築された。外壁は漆喰塗で、1・2階の腰を海鼠壁とし、正背面を扇と蕪の鍍絵で飾るなど、丁寧に造られている。	文政元年(1818年) 建築 明治41年(1908年) 増築
しち 下の蔵	米蔵、道具蔵を一体とし、別棟で附指定の新米蔵が並ぶ。文政6年(1823)頃に建築され、慶応3年(1867)に改修され現在の姿となった。桁行9.7m、梁間3.9m、土蔵造二階建、切妻造、置屋根式の棧瓦葺で、正面に新米蔵まで一連の下屋が付属する。外壁は漆喰塗で正面のみ軒裏まで壁を立ち上げて塗込められるが、他は置屋根の小屋組を現す特異な形式である。土戸の内面に鍍絵が施されている。	文政6年(1823年) 頃建築 慶応3年(1867年) 改築
つけ 附 しん 新米蔵	桁行4.7m、梁間3.8m、土蔵造二階建、切妻造、棧瓦葺で、正面に下の蔵と一連の下屋を設ける。明治31年(1898年)に建築された。外壁は漆喰塗で、1・2階を腰まで海鼠壁とするなど丁寧に造られている。	明治31年(1898年) 建築
総合評価	上の蔵、下の蔵は要所を海鼠壁や鍍絵で飾るなど、江戸時代後期に宗旨庄屋を務めた福田家の家格にふさわしい意匠を持つ。これらの土蔵は石垣・塀などとともに、県内最古の民家主屋と一体となって趣のある屋敷構えを形成しており、鳥取県の上層農家の歴史を伝える遺構として重要である。	

2 指定件数

(1) 今回、国で答申される指定の件数

	既指定	新規指定	追加指定	合計
国宝	226	1	0	227
重要文化財	2,497	6	2	2,503

※ 追加指定の場合は、件数は増加しません。
追加指定2件のうち1件が福田家住宅です。

(2) 鳥取県の指定件数

追加指定のため、今回の答申に伴う件数の増加はありません。

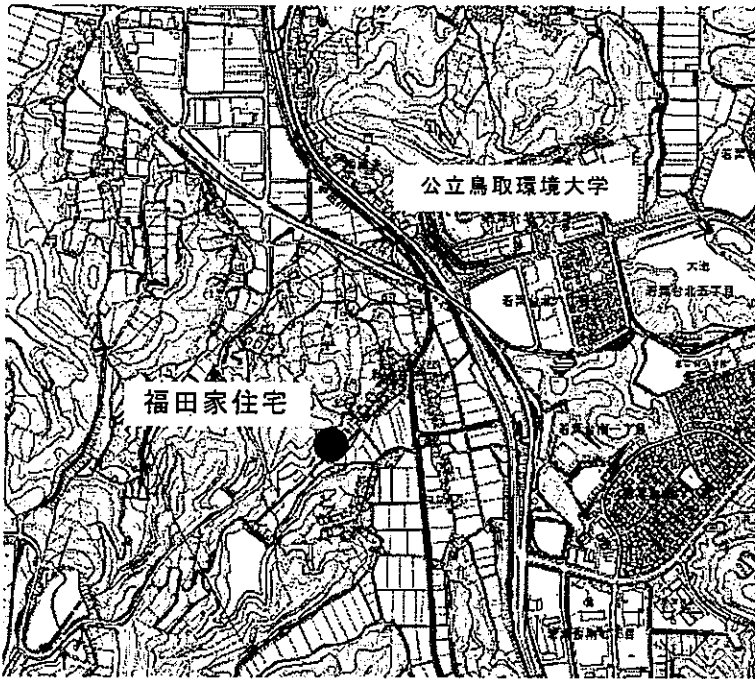
鳥取県の国・県指定文化財総数(答申後。未告示含む)

国指定文化財	県指定文化財
(18)	(24) ※
124	304

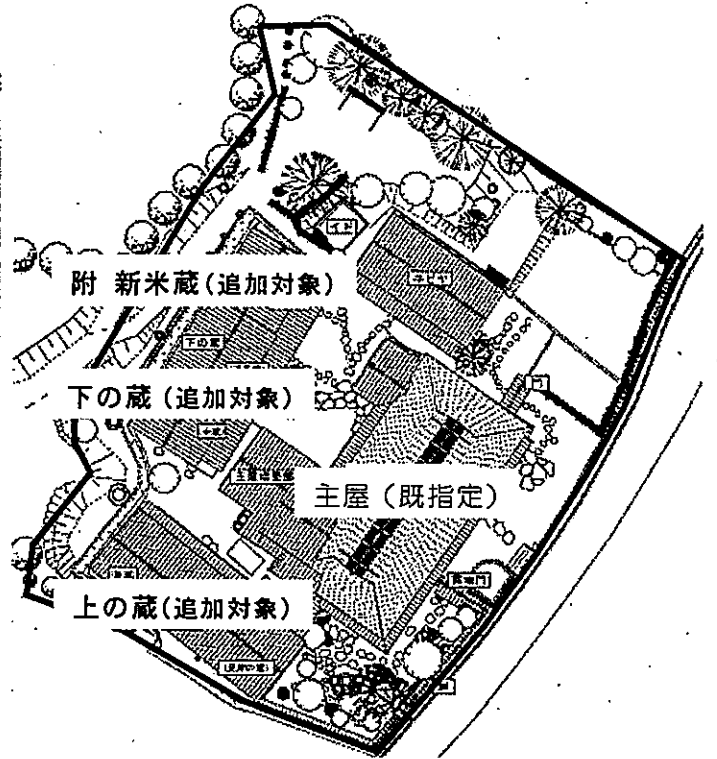
()内は建造物の件数

※「彫刻及び建造物」1件含む

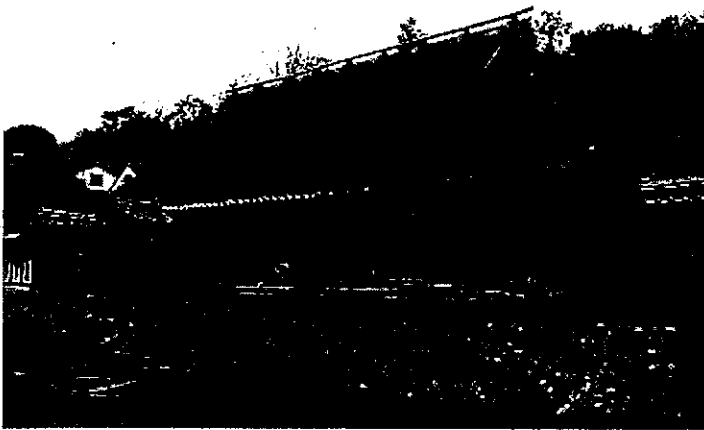
【福田家住宅】



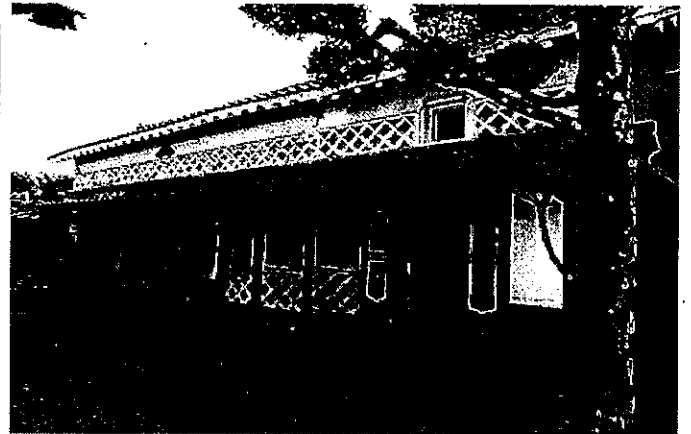
位置図



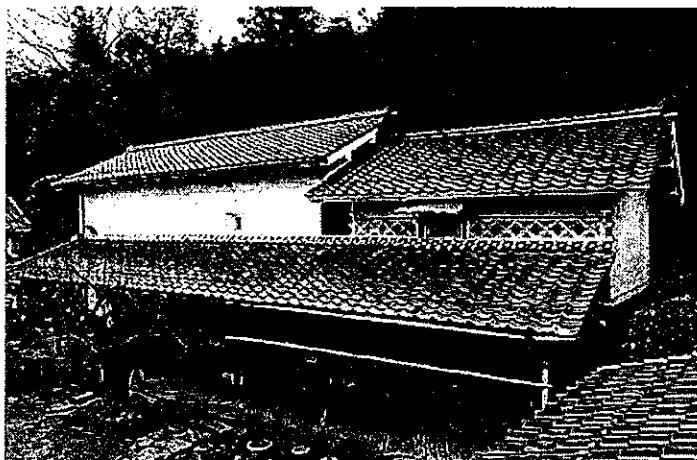
建物配置図 (外周太線内が指定対象の土地)



主屋 (既指定)



上の蔵



下の蔵 (左) ・附新米蔵 (右)



石垣・塀・庭門

麒麟のまち圏域の「日本遺産」認定について

令和元年5月21日
文化財課

「日本遺産審査委員会」における審査を経て、鳥取市と東部4町及び兵庫県2町で構成する麒麟のまち圏域によるストーリー『日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」』が日本遺産に認定されました。

なお、今年度は申請7.2件のうち、16件が認定されています。

1 認定された本県の日本遺産

名称：日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」

申請者：鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町、新温泉町

概要：日本海から吹きつける季節風が創り上げた日本最大級の鳥取砂丘。目に見えぬ風の姿がさざ波模様の風紋に映し出され、海岸を進むと風が起こす荒波に削り出された奇岩が連なる。鳥取砂丘の砂を生み出す中国山地へと急流を辿ると、風がもたらす豪雪に育まれた杉林を背に豪邸が佇む。さらに源流へと分け入ると岩窟の中に古堂が姿を現す。

これらは日本海の風が生んだ絶景と秘境である。

人々は、厳しい風の季節での無事とそれを乗り越えた感謝を胸に、古来より幸せを呼ぶ麒麟獅子を舞い続け、麒麟に出会う旅人にも幸せを分け与えている。

2 日本遺産認定発表及び認定証交付式

日時：令和元年5月20日（月）11:00～12:00

場所：東京国立博物館 平成館 大講堂

3 「日本遺産」認定セレモニー（予定）

日時：令和元年5月25日（土）10:00～

場所：鳥取東照宮参道

概要：1市6町を代表して鳥取市長が認定を報告し、麒麟獅子が舞って厳かにお祝いします。セレモニーには県市町関係者等が出席予定です。

※「日本遺産」とは

○クールジャパン戦略の一環として、東京オリンピック開催（2020年）までに100件を目標に、平成27年度から国（文化庁・観光庁・国土交通省・環境省等）が連携して始めた認定制度。令和元年度で合計83ストーリーが認定となった。

○地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを目的とする。

○今回の鳥取市・岩美町・若桜町・智頭町・八頭町・兵庫県香美町・新温泉町にまたがる因幡・但馬地域の認定は、平成27年の「六根清浄と六感治癒の地」（三朝町）、平成28年の「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」（大山町・米子市・伯耆町・江府町）、平成30年の「北前船寄港地」（鳥取市）に続き、鳥取県として4件目の認定である。

ストーリー

鳥取砂丘を創り出す日本海から吹く「風」

中国地方の北側、山陰東部に位置する因幡・但馬地方は、北は日本海に面し、背後に中国山地の高い山々が連なっている。この地域に吹きつける日本海からの激しい北西の季節風は、中国山地にぶつかり、「山雪」と呼ばれる豪雪を山間部にもたらすとともに、鉛色の海に海岸を削る荒波を起し、川が山地の岩石を砕いて海まで運んだ砂を巻き上げ、日本最大級の「鳥取砂丘」を誕生させる。

風が育む「砂」の賜物

見渡す限り、一面に広がる砂。ある時は豪快に、またある時は穏やかにその表情を変える。鳥取砂丘では、高低差が90mにもなるダイナミックな起伏をキャンパスに、さざ波模様の「風紋」をはじめ、砂がスダレ状に滑り落ちる「砂簾」や砂が高く隆起する「砂柱」など、目には見えない風の姿が描かれている。砂のキャンパスに足跡を残しながら「馬の背」と呼ばれる巨大な砂の壁を登り詰めると、日本海を超えて辿り着いたばかりの風を感じることができる。鳥取砂丘は、中国山地から流れ出た岩石が川の流れにより砕かれ、砂となって海へと運ばれた後、長い年月をかけて風の吹き返しにより大砂丘へと成長を遂げたものである。その西端にある「不増不減の池」は、季節を問わず水の量が一定に保たれ、古事記に登場する因幡の白兔が体を洗ったとされる。

荒波が運ぶ砂は鳥取砂丘を創り出すだけでなく、海に砂が帯状となって伸び出す砂州を成長させ、波静かな数多くの潟湖を人々に与えた。約2,000年前の弥生人たちは、潟湖を港として利用した青谷上寺地遺跡の地に、中国大陸や日本列島各地との交易を行った証を大量に残しており、当時の技術や芸術性の高さを今に伝えている。

こうした大地の営みを一つの遺産として、人々は砂の彫刻「砂像」で新たな造形美を創り出すなど、砂の魅力を自らの手で進化させている。

風が育む「波」の賜物

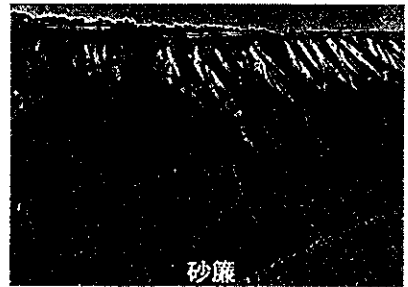
鳥取砂丘から日本海に沿って進むと、荒波が岩を削り取って造形した龍や獅子の躍動する姿を思わせる奇岩や洞窟、断崖、入り江を白く彩る砂浜など、約50kmにもわたって連なる多彩な海岸地形の世界を楽しむことができる。崖上や深く切り込んだ入り江などの人の往来が困難な場所に荒波を避けて点在する漁村集落や、山が海に迫る崖を跨ぐ鉄道として敷設された「余部鉄橋」は、複雑に入り組んだ海岸と人との共生の歩みを象徴しており、空の駅と呼ばれる天高く延びる鉄橋からの大パノラマは訪れる人々を魅了する。

日本海を見下ろす崖上の岬に立地する「御崎集落」は、他の集落との交流が隔絶されたことで、平家の落人伝説が残る。そこでは、眼を描いた的を源氏に見立てて101本の矢を射る「百手の儀式」を今も見ることができる。

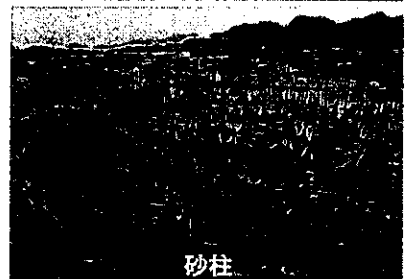
これらの漁村集落では、松葉ガニ漁や白イカ漁の拠点となる港が賑わいを見せ、風に耐える板囲いをした家が重なり合うように軒を連ねている。江戸時代から続くこうした佇まいは、美しい海岸線とともに、風が起す荒波と共生する人々の暮らしと漁業の繁栄を表している。



日本海からの季節風が起す荒波



砂簾



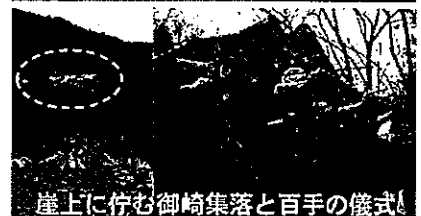
砂柱



青谷上寺地遺跡出土品 砂の彫刻「砂像」



多彩な海岸地形（但馬御火浦）



崖上に行む御崎集落と百手の儀式



余部鉄橋「空の駅」

風が育む「雪」の賜物

鳥取砂丘の砂を生み出す中国山地へと急流を遡ると、冬には「山雪」に深く覆われる山郷へ辿り着く。そこでは無数の深い谷の奥に茅葺屋根の小さな山村がひっそりと隠れ、鬱蒼とした杉林を背に豪邸が佇む。

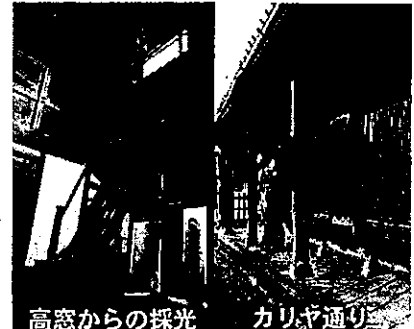
山間部の繁栄を象徴する「石谷家住宅」は、かつて宿場町として栄えた古い町並みに佇む大正期に建築された豪邸で、広大な敷地の中に7つの蔵と40を超える部屋を有する。主屋の土間に入ると、巨木を使った梁組が14mもの高さに組まれており、訪れる者を圧倒する。

こうした大邸宅は、江戸時代から続く林業の繁栄によって生まれたもので、高窓からの採光や太い梁・柱などに豪雪への備えを見ることが出来る。冬の豪雪と寒さは、枝が雪の重さで下向きに成長する木目の詰まった天然の杉を誕生させ、人々はこの天然杉を挿し木で増やし、この地に適した優良大径木の杉林を育てあげた。樹齢約350年の「慶長杉」と呼ばれる日本最古の人工林は、山を生業の場とした長い歴史を物語り、繁栄をもたらした杉への感謝の念は、杉の精霊を祀る白い三角形の塔を御神体とする「杉神社」となって表れている。杉の人工林と里山の天然林が織りなす美しい林業景観では、酒蔵や家々の軒先に吊るされた杉玉と冬の雪灯籠の灯りが、杉の香りとともに旅人を出迎えてくれる。

杉材や木炭などの森林資源の輸送路として、昭和初期に開業した「若桜鉄道若桜線」では、開業時に建てられた木造の駅舎が立ち並び、終着駅に降り立つと、手動式の転車台で転回する蒸気機関車が残っている。駅前には積雪に耐える赤瓦を葺いた白壁の土蔵が立ち並び、豪雪対策として家の庇を道路側に伸ばした「カリヤ」と呼ばれるアーケードと山からの清流を運ぶ水路が通りに沿って続いている。これらは明治18年の大火を契機に、住民自らが設置したものであり、カリヤの下では、雪の日でも水路のせせらぎとともに人々の話し声が今も響いている。雪化粧が似合うこの町を背に、さらに源流へと分け入ると、仰ぎ見る天然の岩窟に、舞台造りの「不動院岩屋堂」がすっぽりとおさまり、神仏の宿る岩窟の中では、村人たちが1,000年以上もの間、護摩の煙を立ち昇らせている。



土間上の巨木の梁組



高窓からの採光 カリヤ通り



山雪に覆われる不動院岩屋堂

風の季節での無事と感謝を胸に舞われる「麒麟獅子舞」

この地では一角をもつ黄金の頭に緋色の衣装を纏った「麒麟獅子舞」が、約180の村々に継承され、舞われている。

麒麟は他の生き物を傷つけない泰平の世の象徴とされた中国に伝わる霊獣で、約370年前に初代鳥取藩主・池田光仲が偉大な曾祖父・徳川家康を祀るために創建した神社の祭礼で、麒麟の顔を持つ獅子舞として初めて姿を現した。きらびやかなその姿を見た人々は、幸せを呼ぶ存在として、自分たちの村の祭りにも取り入れたいと強く願った。麒麟獅子はその顔や舞の作法など、村ごとに異なる個性と形態を生みながら、この地に広がり受け継がれていった。

風は砂・波・雪の賜物を人々に与えた一方で、飛砂や荒波、豪雪などの厳しい自然に対峙する暮らしを人々に課してきた。これから迎える厳しい風の季節での無事とそれを乗り越えた感謝を胸に、人々は古来より幸せを呼ぶ麒麟獅子を舞い続け、麒麟に出会う旅人にも幸せを分け与えている。

因幡・但馬は、日本海から吹きつける風と人の共生の地であり、麒麟獅子を心のよりどころに、砂・波・雪の厳しい自然を受け入れ、風とともに生きる人々の知恵と逞しく生き抜いてきた歴史が息づいている。



若町の祭礼で舞う麒麟獅子



神社の祭礼で舞う麒麟獅子

令和元年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定一覧

番号	道府県名	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	北海道	◎赤平市, 小樽市, 室蘭市, 夕張市, 岩見沢市, 美瑛市, 戸別市, 三笠市, 栗山町, 月形町, 沼田町, 安平町	本邦国策を北海道に観よ! ~北の産業革命「炭鉄港」~
2	宮城県, 岩手県	宮城県(気仙沼市, 南三陸町, ◎蒲谷町), 岩手県(平泉町, 陸前高田市)	みちのくGOLD浪漫 - 黄金の国ジバング, 産金はじめりの地をたどる -
3	群馬県	館林市	里沼(SATO-NUMA) - 「折り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化 -
4	福井県	◎福井県(福井市, 勝山市)	400年の歴史の扉を開ける旅 ~石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井~
5	愛知県	名古屋市	江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ~藍染が風にゆれる町 有松~
6	三重県	◎鳥羽市, 志摩市	海女(Ama)に出逢えるまち 鳥羽・志摩 ~素潜り漁に生きる女性たち
7	滋賀県, 岐阜県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県	滋賀県(◎大津市, 長浜市, 近江八幡市), 岐阜県(揖斐川町), 京都府(宇治市, 京都市, 亀岡市, 宮津市, 舞鶴市), 大阪府(和泉市, 藤井寺市, 茨木市, 箕面市), 兵庫県(宝塚市, 加東市, 加西市, 姫路市), 奈良県(高取町, 明日香村, 桜井市, 奈良市), 和歌山県(那智勝浦町, 和歌山市, 紀の川市)	1300年つづく日本の終活の旅 ~西国三十三所観音巡礼~
8	大阪府	泉佐野市	旅引付と二枚の絵図が伝えるまち - 中世日根荘の風景 -
9	大阪府	河内長野市	中世に出逢えるまち ~千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫~
10	兵庫県	赤穂市	「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂
11	鳥取県, 兵庫県	鳥取県(◎鳥取市, 岩美町, 若桜町, 智頭町, 八頭町), 兵庫県(香美町, 新温泉町)	日本海の風が生んだ絶景と秘境 - 幸せを呼ぶ靈獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」
12	島根県	◎浜田市, 益田市, 大田市, 江津市, 川本町, 美郷町, 邑南町, 津和野町, 吉賀町	神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ~石見地域で伝承される神楽~
13	岡山県, 香川県	岡山県(◎笠岡市), 香川県(丸亀市, 土庄町, 小豆島町)	知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島 ~海を越え, 日本の礎を築いた せとうち備讃諸島~
14	徳島県	徳島市, 吉野川市, 阿波市, 美馬市, 石井町, 北島町, ◎藍住町, 板野町, 上板町	藍のふるさと 阿波 ~日本中を染め上げた至高の青を訪ねて~
15	鹿児島県	◎鹿児島県(鹿児島市, 出水市, 垂水市, 薩摩川内市, いちき串木野市, 南さつま市, 志布志市, 南九州市, 姪良市)	薩摩の武士が生きた町 ~武家屋敷群「麓」を歩く~
16	沖縄県	◎沖縄県(那覇市, 浦添市)	琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」, そして「芸能」

第5回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会の開催結果について

令和元年5月21日
スポーツ課

東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプや国際大会、国内外のトップチームの合宿等の本県誘致に向けた取組状況、その方向性の確認等を目的に、市町・競技団体など関係者が集まり「第5回鳥取県東京オリ・パラキャンプ誘致推進委員会」を開催しました。

1 日 時 5月16日(木) 午前10時～11時

2 場 所 とりぎん文化会館 第3会議室

3 参画団体(参加者)

《自治体：6》

鳥取県(平井知事)、倉吉市(石田市長)、八頭町(藪田教育長)、鳥取市(神谷次長)、米子市(岡局長)、境港市(黒崎課長)

《競技団体：10》 ※下線は新規加盟団体

鳥取陸上競技協会(新田専務理事)、県サッカー協会(高田専務理事)、県ホッケー協会(福田会長)、県セーリング連盟(安田会長)、県自転車競技連盟(伊藤会長)、県卓球連盟(依藤会長)、県柔道連盟(吉村会長)、県ラグビーフットボール協会(欠席)、県山岳・スポーツクライミング協会(葉狩副会長)、鳥取パラ陸上競技協会(山本会長)

《スポーツ団体：2》

県体育協会(中永会長)、県障がい者スポーツ協会(福留会長)

4 内 容

- ・議事(平成30(2018)年度事業報告・収支決算、令和元(2019)年度事業計画(案)・収支予算(案))
- ・意見交換(各競技団体の取組状況、誘致に係る課題等)

5 会議での意見・今後の方向性等

陸上	2017年11月にジャマイカオリンピック協会・パラリンピック協会と包括協定を締結した。昨年に引き続き、今年もホストタウン事業による陸上交流を進め、2020年に向けて関係性を強化していくとともに、受入に向けて準備を進めていく。
サッカー	今年6月に開催される女子ワールドカップの結果を踏まえて、これまで誘致活動を行っているドイツ女子代表やノルウェー女子代表との交渉を進めていく。
ホッケー	これまで誘致活動を行っていたニュージーランドとは進展がない状況にあるため、県ホッケー協会、八頭町、県の3者で新たな誘致対象国を協議し、相手国への接触を図る。
セーリング	昨年10月にクロアチア拠点のセーリングチーム・J.K.モルナルと2018年～2020年の境港合宿に係る包括協定を締結した。この協定に基づき、今年6月と9月にJ.K.モルナルがキャンプを実施する予定。また、6月～7月に開催する「レーザー級世界選手権」において境港をセーリングの聖地として世界に売り込んでいく。
自転車	昨年度接触に成功したイギリス、アメリカ等を対象に、キャンプ誘致の働きかけを継続する。なお、トラックが急速に劣化しており、改修が必要。
卓球	昨年10月に開催された「ワールドカデットチャレンジ大会」時に、会場にて交渉を行ったヨーロッパやオセアニアのチーム等と交渉を継続する。
柔道	2017年にモルドバ共和国柔道連盟から本県で事前キャンプを実施したい旨の意向を受けており、引き続き、モルドバ側と受入に係る条件面の調整を進める。
ラグビー	オリンピック(7人制)の誘致に向けて、対象国の情報収集などを行い検討していく。
クライミング	昨年は8月に日本代表が強化合宿を、12月にフランス代表が視察合宿を倉吉で実施するとともに、11月に開催された「クライミングアジア選手権」ではアジア各国から高評価を受けた。今年昨年から交渉を進めているフランスを主要対象とし、今年8月に東京で開催される「クライミング世界選手権」の事前合宿実施に向けた交渉を継続する。
パラ陸上	ジャマイカパラリンピック選手団の受入に向けて、関係者と準備を進めていく。
その他	東京オリ・パラに向けて、共生社会ホストタウンの取組もしっかりと進めていく。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

【新規分】		地域振興部						
主務課 スポーツ課 〔営繕課〕	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	入札方式	
	倉吉体育文化会館熱源改修 工事	倉吉市山根	株式会社クラエー 代表取締役 西村 博文	284,796,000円 (予定価格) 288,360,000円	平成31年4月3日 ～ 令和2年3月10日	平成31年4月2日	制限付 一般競争入札 (2社)	